

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月31日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670300724号		
法人名	有限会社 いきいきケアサポート		
事業所名	グループホーム いきいき館		
所在地	鹿児島県 鹿屋市 東原 6006番地 1 (電話) 0994-42-7112		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年10月19日	評価確定日	平成21年11月14日

【情報提供票より】 (平成21年9月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	18人	常勤 12人	非常勤 6人 常勤換算 12.6

(2) 建物概要

建物構造	木造 平屋造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	7,500 円
敷金	有 (円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		950 円

(4) 利用者の概要 (9月15日現在)

利用者人数	17名	男性	1名	女性	16名
要介護1	3名	要介護2	8名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.5歳	最低	77歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小倉記念病院	さかもと歯科クリニック
---------	--------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、閑静な住宅街の中にあり、隣設の公園は、住民の憩いの場所になっており、グランドゴルフを楽しんだりしている。また、桜の咲く時期には花見を楽しむ地域住民とのふれあいがある。管理者は鹿屋市認知症サポーター養成講座や認知症予防教室の講師を務めるなどして、地域に貢献している。利用者一人ひとりの個性を尊重し、その人らしさを活かすケアの取り組みをして、利用者の力を発揮できるよう丁寧な支援をしている。職員はよりよい介護へのモチベーションが高く、自己評価においても、現状見直しに積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員を育てる取り組みについて、年間研修計画を基に段階に応じて受講し、講義内容を報告し全職員が共有し、改善している。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ユニットごとにリーダーを中心に、全職員で自己評価を行った。また、外部評価の結果についても具体的な改善に取り組み、サービスの向上に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、指導監査結果や外部評価結果等を報告し、また、新型インフルエンザ対策が話し合われ、そこでの助言・指導をもとに、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時や家族会の折に意見や要望を聞くようにしている。また、いろいろな場面で要望や意見を聞けるような雰囲気づくりに努め、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、入居者・職員は、地域の小学校の運動会や町内の文化祭や夏祭り等に参加し、地域住民との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とのかかわりを明確にして、事業所独自の「理念」を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関・リビング等の目につきやすい場所に理念を掲示している。日々、全職員は、「理念」に基づいてケアに努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、花見・文化祭に参加している。小学校の運動会を見に行ったり、夏祭りに入居者・職員が踊り連に参加するなど、地域の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニットごとにリーダーが中心になり、全職員で自己評価を行った。また、外部評価の結果についても具体的な改善に取り組み、サービスの向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月ごとに開催し、家族代表・地域住民代表・行政機関代表等が参加し、入居者の現状・サービスの実施報告等がされ、参加者からも意見や要望が出され、それを活かして、サービスの質向上に努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者と入居者についての状況報告をしたり、県・市関係者とケアについて意見交換会を行い、サービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを家族に郵送したり、また病院受診に際しても家族に報告している。金銭管理については毎月の請求書に納帳のコピーを同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で意見や要望を聞いたり、家族の面会時にも気軽に話しができるような雰囲気作りに努め、それを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は最小限に抑えるように努力し、毎月職場内研修を行い、どうしても離職者が出た場合は、入居者にダメージを与えないように細心の配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場外研修には年1回以上参加できる取り組みをしており、職場内研修も毎月実施し、2ヶ月ごとに外部講師を招き研鑽をおこない質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会に加入し、研修会を通して地域の同業者と交流している。また相互訪問するなどしてケアの質の向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族にグループホームに来てもらい、雰囲気を感じてもらうようにしている。緊急性のある場合は、職員が自宅へ出向いて馴染みの関係の構築に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々入居者一人ひとりの気持ちを把握し、励まされたりしながら家族のように接している。利用者の何気ない言動も深く掘り下げて理解するように努め、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意向については、特に食事や入浴・身体状況について聴くようにし、日常の所作からも意向の把握に努めている。また、困難な場合は、家族や関係者から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人が自分らしく生活できるように、本人や家族と話し合い、かかりつけ医の意見を聞いている。また、職員全員で話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の職員会議時に、入居者一人ひとりについて話し合いをし、また3ヶ月ごとにモニタリングを行っている。容態変化が生じた場合は本人・家族・関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしてい る	病院受診の送迎・買い物・墓参り・自宅訪問等 の支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	入居者の希望するかかりつけ医に、定期的に受 診し、日常の健康状態を報告し、適切な医療が 受けられるように支援している。訪問看護ス テーションと医療連携が取れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、で きるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかか りつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共 有している	入居時に家族と、重度化した場合や終末期に関 する話し合いを行ない、「看取り介護に関する 指針」の同意書に確認印をもらっている。また かかりつけ医とも話し合い、全員で方針を共有 している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよう な言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱い をしていない	入居者一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を損 ねることがないように対応している。記録等の 個人情報は決められた人が決められた場所に保 管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの長年の習慣や体調・気分に合わせて、 起床や食事・入浴・就寝の支援をしてい る。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が力を合わせ、食事の下ごしらえをしながら、楽しく一緒に食事をしている。食事介助の必要な人には職員が介助支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2ユニット間で入浴日を決めているが、希望があれば自由にいつでも入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴を参考に、食事の準備・配膳・後片付け・洗濯物干しなどの役割や縫物や手芸等の楽しみごとや気晴らしの支援を一緒に行い、生きがいを感じられるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は日課として隣の公園で散歩をしたり、週1回の買い物や墓参り・レストラン等での外食を行い、気軽に戸外に出かけるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけないようにしている。かけることの弊害を職員会議等で研修し自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署や地元消防団の協力のもとに、地域住民も参加して、昼・夜間想定避難訓練を行っている。また非常時に備えての食糧や飲料水の備蓄や懐中電灯の準備もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養・水分摂取量のチェックを毎日行い、必要量の摂取ができるように支援している。また、栄養バランスにも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の周りには花を植えたり、リビングや廊下にソファやいすが置いてあり、生活感・季節感に配慮した、入居者が居心地良く過ごせる共用スペースとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全居室は常に日差しが差し込むように設計しており、日差しはカーテンで調整できる。ベッド・タンスは備え付けで、自宅から使い慣れた家具やテレビ等が持ち込まれ、位牌や家族等の写真も飾られ、居心地良く過ごせるように工夫されている。		

※  は、重点項目。